

## まちづくりに向けた近代化遺産イラスト画製作に関する一考察

足利大学工学部 学生会員〇福地 晴香  
足利大学工学部 正会員 福島 二郎

## 1. はじめに

慢性的な少子高齢化や若年労働者層を中心とした大都市圏への人口流出の進行に伴い、地方都市ではその弊害が恒常化している。そのため、地方都市では、地域の維持とその先の活性化に向けた取り組みが急務となっている。このような中、地域のアイデンティティとしての歴史・文化の活用が着目され、近代化遺産活用の試みが各地で行われている。本稿では、2015年度の成果として製作した近代化遺産イラスト画を端緒に、2018年度のまちづくり活動について述べる。その中で、イラスト画を構成する内容の更新を踏まえ、意図および狙いについて考察を行うとともに、これからの展開と研究展望を行う。

## 2. 足利市近代化遺産のイラスト画製作の端緒

## (1) 高大連携プログラムと「課題研究」

足利大学は、2007年度に栃木県立足利工業高等学校との間に『高大連携プログラム』が締結された（当時は足利工業大学）。この『高大連携プログラム』は、5月～7月に9乃至10日間にわたり『調査・研究』分野に係る指導が行われ（1日の学習時間は9時～15時の6時間）、この連携は現在も継続されている。

## (2) 足利市近代化遺産イラスト画製作の端緒

2015年度の『高大連携プログラム』では、「課題研究」として4テーマ・10名の高校生が受講した。そのうち、筆者は受講生として、自転車を利用した新たな観光資源の発掘とその情報発信手法について取り組んだ。市の主要な鉄道駅2カ所を起点に、近代化遺産6件8施設を含む観光資源10施設をイラスト画とその解説文によりまとめた（A1・2枚）。また、これらの施設を自転車で巡るマップの作製も行い、マップには主要な道路網にイラスト画も小さく挿入した。この近代化遺産イラスト画による観光マップと解説資料の製作は、足利市では初めての取り組みであった。

## 3. 近代化遺産を活用したまちづくり活動

## (1) デスティネーションキャンペーンでの解説

『足利市の近代化遺産を考える会（以下、考える会）』に対し、足利市から標記キャンペーン（以下、DC）への協力依頼があった。『考える会』とは、近代化遺産の保存と活用を目的に設立された市民団体で、筆者もその会員である。またDCとは、JR旅客鉄道と自治体・地元観光業者の協働による大規模な観光キャンペーンであり、『考える会』では5月19日に市内3カ所において近代化遺産の解説を行い、筆者も解説者として参加した。2015年度に製作したマップを含むイラスト画3枚、さらに今回の解説を踏まえ4施設のイラスト画と解説をまとめた1枚を新たに作製し、併せて4枚の解説文付きイラスト画により解説した。DC期間中（4月1日～6月30日）の足利市への観光客入込数は約1,823千人であった（同期間における前年比約128千人増）。

## (2) 近代化遺産講座の開催

市民を主たる対象に、近代化遺産講座を4回開催した。これは、近代化遺産への興味の増幅とその浸透を進めながら、これからのまちづくりに向けたその活用手法やデザインについて、提案および情報共有を行うのが目的である。会場には、講座における内容の理解

表1 近代化遺産講座の開催概要と参加者の主な意見

	開催日	テーマ	概要	参加者
第1回	9月22日	近代化遺産ってなに？	近代化遺産の定義と保存・活用の意義 ・足利市近代化遺産の形成過程と特徴 ・現存する足利市近代化遺産についての解説 (10件、16施設)	17人
第2回	10月20日	活用デザインの全国事例を調べてみよう	①学校施設 ・文部科学省HP/廃校活用リンク集 ・北海道教育委員会HP/廃校施設の活用事例集 ②橋梁 ・「日本の近代土木遺産—現存する重要な土木構造物2800選(改訂版)」より、プレーズドリブタイトアーチ橋を抽出 ・現存する10橋についての詳細解説 ・作成した足利市街地の近代建築マップの配布	17人
第3回	11月10日	足利の近代和風建築のはなし	22施設の概要解説 ・旧岡崎家住宅(成岡邸)の詳細解説	20人
第4回	12月15日	足利市近代化遺産の活用デザインを考えてみよう	足利市近代化遺産の保存および活用に関するデザイン案の提示と解説(中橋、旧私立足利盲学校) ・参加者による意見交換	15人
<<参加者の意見・感想等>> ①中橋について ・“帝都の門として相応しい橋”との話を聞き、より中橋に対する思いが深まった。 一方で、災害に対する脆弱性も理解している。保存・活用と安全性の両立について考えなければならない。 ・景観の視点から、現在の位置にあることに意義がある。移築には反対。 ・社会の進歩という面から考えると、新しいものに転化していくことで古いものを活かすことが大切なのは。 ・市の中心街が寂れている現状を招いたのは中橋なのではないか。移築・架け替えに賛成。 ②旧私立足利盲学校について ・近隣住民もその存在を知らないという現状がある。市民に対する周知活動が必要。 ・個人の持ち物であるが活用は可能なのか？ また、活用により維持費に要する収益が出せるのか？ ・存在意義を市民に向けてPRすべき。テレビ局へ応募すれば全国規模のアピールとなる。 ・フィルム・コミッションへの登録によりアピールするのの一つの手段。				

キーワード；近代化遺産，地方都市，まちづくり，イラスト画の製作

連絡先；〒326-8558 栃木県足利市大前町 268-1 足利大学工学部 TEL：0284-22-5687 E-mail：fuku@ashitech.ac.jp

およびその誘発の一助とすべく、前述したイラスト画4枚を展示した。講座で主たる対象として取り上げた近代化遺産は、撤去・更新が危惧されている『中橋』と『旧私立足利盲学校』である。レクチャーの後に参加者と意見交換を行い、特に、最終回での活用デザイン提示後、『中橋』では“原位置・原形式で保存”と“移築・架け替え”の両極の意見が出された。一方、『旧私立足利盲学校』では、“保存・活用”とそのため“具体的な活用例”まで提案される等、統一された方向性が示された。

表1に、講座の概要と参加者の意見の概要を示す。

4. 足利市近代化遺産イラスト画の更新と今後の展開

(1) 近代化遺産個々の特徴等に係る再調査

足利市に現存する近代化遺産は、『栃木県の近代化遺産—栃木県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書』（栃木県教育委員会、2013年）では42件であった。その後、当研究室の調査により、13件消失していることが分かった（2010・2017・2018年調査）。2018年の調査の目的は、これまで解説に使用してきた4枚のイラスト画とは別に、1枚の用紙に1件の近代化遺産とさらにその建造物が有する特徴等を書き加え、所謂個々の遺産の形式と文化等、建造され今日に至る間に醸成された言わば“遺産の物語”としての情報をイラスト画として表出（描写）するための作業である。

(2) イラスト画の更新・狙いと今後の展開

これまでに製作した4枚のイラスト画は、建造物の描写とその基本となる紹介文をまとめただけのものである。今回の更新は、遺産としての魅力情報を地域交流のツール、文化交流活動のツールとして近代化遺産を利活用することである。この更新にあたっては、近代化遺産の形式とともに、遺産個々が有する情報を“解説のための要素＝物語性”として整理している。この“物語性”の表出（描写）を加え、近代化遺産イラスト画として再構築した。なお、今回の取り組みとその成果は、5月29日～6月9日に開催される美術展『CON展 en Ashikaga 2019 わくわくアート、街にひろがれ』に出展・公開することになり、今回の製作に対する外部評価も併せて行うこととしている。表2に、主要な近代化遺産の解説要素、図1に、製作したイ

ラスト画を示す。

5. まとめ

本稿では、まちづくりに向けた近代化遺産の活用手法としてイラスト画の製作を提起した。情報発信手法としてこれまで利活用してきたイラスト画を基に、遺産が有する“物語性”を加えた近代化遺産イラスト画として新たに製作したものである。この“物語性”を鑲めた新イラスト画は、1枚の画面に近代化遺産の持つ種々の情報を集約することにより、その認知と浸透に優位なツールとして機能するものと考えている。今後は、成果の検討を踏まえ、昇華に向けて取り組む所存である。

表2 主要な足利市近代化遺産の解説要素

番号	遺産名称(現在の名称)	解説のための要素
1	足利の水道施設	・土木学会選奨土木遺産(2015年度認定:①②③すべて) ・昭和天皇が行幸(1934年) ・コロニアル風洋風建築(フランス瓦葺屋根、三角ドーマー窓、上げ下げ窓) ・国登録有形文化財(2006年:国土の歴史的景観に寄与しているもの)
	①緑町配水場管理事務所(緑町配水場水道山記念館)	・ゼツェンション風の保守・点検用入口棟 ・国登録有形文化財(2006年:国土の歴史的景観に寄与しているもの)
	②着水井・配水池・計量室	・ゼツェンション風建築(パラペットの装飾・アーチ窓) ・国登録有形文化財(2006年:造形の規範となっているもの)
2	③今福浄水ポンプ場	・本格的なルネサンス様式の洋風建築(半円形ベディメント、イオニア式オーダーの壁柱) ・一階がピラスター(角柱)、二階がコラム(円柱) ・番書模様の通風孔等、繊細な洋風装飾 ・栃木県指定文化財(1989年)
	旧木村浅七工場事務所棟(足利織物記念館)	・1902年の政令により建造された模範工場で唯一現存する ・当初、模範工場は全国に6ヶ所(京都、福井、富山、米沢、桐生、足利)建造された ・大谷石造(2連鐘屋根) ・ロマネスク様式の半円窓・パトレス ・わが国で最初期の転用事例として貴重 ・国登録有形文化財(1999年:国土の歴史的景観に寄与しているもの)
3	足利模範糸工業(アンタレススポーツクラブ)	・イギリス種の煉瓦造(6連鐘屋根) ・壁面に黒色の迷彩(軍需工場として使用されていた名残) ・社名の変遷(足利織物株式会社→明治紡織株式会社→株式会社トセセン) ・中央資本による足利初の大規模機械工場(明治紡織時代) ・国登録有形文化財(1999年:国土の歴史的景観に寄与しているもの)
4	足利織物株式会社(榊トセセン)	・コロニアル風建築(マンサード屋根、ハーフィンバー) ・車寄せ風の入口部分 ・横一文字・片廊下型の木造建築物 ・県内最初期の身障者のための学校建築物として貴重
5	私立足利盲学校	・昭和初期の駅舎の様相を留める ・昭和8年建造の駅舎として両毛線では唯一現存する ・看板建築風に立ち上げた壁面と3つのアーチ型ステンドグラス窓が特徴 ・2019年度土木学会選奨土木遺産に推薦中
6	国鉄足利駅舎(JR両毛線足利駅舎)	・タイドアーチおよびプレースドリブに関する解説 ・3連のプレースドリブタイドアーチ橋の希少性 ・(現在わが国で10橋、7連、5連、3連アーチ各1橋、他7橋は単円アーチ)
7	中橋	・開口部のある整層切石積の橋脚(布積み:煉瓦組積法というイギリス積) ・3代の形式の変遷と形式に対する解説(ポウストリントグラス・プラットフォーム・ワーレントラス) ・森高千早さんの楽曲「渡良瀬橋」で歌われた情景、歌碑の所在
8	渡良瀬橋	

(「日本の近代土木遺産—現存する重要な土木構造物2800選[改訂版]」、栃木県の近代化遺産—栃木県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書」、文化庁 国指定文化財等データベース(https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index.pc.html)、栃木県 県指定等文化財一覧(http://www.tochigi-edu.jp/center/bunkazai/bunkazai/kubun/ps-building.htm)、公益社団法人土木学会HP 土木学会選奨土木遺産(http://www.jsce.or.jp/contents/isan/kanto.shtml)を基に作成)



図1 製作した近代化遺産イラスト画(中橋)